

砂原かつのり

すなはら

広島市西区横川町1-5-7
[TEL]082-292-8328 [FAX]082-292-8379
http://sunahara-k.com/
E-mail:sunahara@ms11.megaegg.ne.jp

〒730-8509 広島市中区基町10-52 広島県議会「広志会」控室
[TEL]082-513-4620 [FAX]082-223-0185



ターニングポイントになった当初予算を振り返る

県庁舎のあり方を問う

第一に、県庁舎の耐震化の実設計予算が提案されました。これで県庁舎は約30年持つとのことですが、逆に、30年間、広島市の一等地である紙屋町界隈の市街地再開発が遅れるということになります。また、今後再開発が具現化すれば、今回投入される30億円の耐震工事費は無駄になるのです。

民意無視の設計変更

第二に、東部地区連続立体交差事業は、調査設計費が提案されましたが、船越地区を高架化しない見直し計画になっています。

そもそも行政側は、向洋から海田までの全区間の高架化を前提として用地買収に入り、住民の皆様も了解したのです。

今現在、船越地区住民の皆様は変更計画に賛同していません。このまま都市計画が変更されて良いのでしょうか。



仙台駅を結ぶ仙台空港鉄道

しかし、設計予算は承認されたので、変更計画に向って事業は進んでいきます。向洋で登り、船越で平地に戻り、また海田で高架になる、まるでジェットコースターのような線路ですが、将来に禍根を残すのではといわれています。

札幌・仙台・福岡では、アクセス広に？

広島空港へのアクセス問題についても、改善されません。先般、会派で視察した仙台市では、仙台空港と仙台駅を「仙台空港アクセス鉄道」により、最短17分で結んでいます。この便利さと低価格旅客LCCと

の連携により、仙台空港の搭乗者数は増加しており、広島県が年間270万人に対し、仙台空港350万人と格差が広がっています。空港と鉄道との連携が、なぜ広島県ではできないのでしょうか。

札幌市では、地下鉄を新設した後、「札幌ドーム」を建設しました。広島では空港を移転した後でアクセスを考えており、手順が逆なのです。

福岡市では、早くから環状都市高速道路を整備し、北と南で九州自動車道と直結させており、市内は民営鉄道・民営バス網も充実しています。

札幌・仙台・福岡では、アクセス整備を非常に重要視し、市民や企業の利便性を向上させています。また、戦略を持って街づくりをしています。

広島はどうかでしょうか？県の意思決定は益々広島の活性化を遅らせているのではないのでしょうか？札幌・仙台・福岡

この差は拡がるばかりです。

サッカースタジアムの建設問題にも「石を投じる」

広島市のサッカースタジアム建設地の選定問題についても、同様の課題があります。そもそも、今使用しているエディオンスタジアムについて、アクセス問題、観戦の利便性などの課題があるから、新スタジアムの建設が検討されていますが、現在、県や市などで議論されているのは、候補地の交通アクセスの分析も曖昧、反対する関係者の理解を得ようとしないうち、場所ありきの議論がなされているように強く感じます。単にスタジアムの建設だけではなく、交通アクセスの問題も含め、都市の賑わいや活性化、そして移転後のエディオンスタジアムの利用計画等、総合的に考えてゆくべきではないでしょうか。今後の広島の街づくりの鍵は、「不便さ」を解消するには何をすればよいのかを追求すること、これが広島の活性化の原点になるのではと考えます。

県民のためになるかを軸に議会で

代表質問のポイント

県民が納得できる広島県政実現を目標に、広志会は新旧の課題が解決するまで問題提起する姿勢を続け、今定例会でも知事の考えを問いました。まず

1、長期的な展望に立った県政運営の在り方についてとして

◆グローバルリーダー（GL）育成校の設置 ◆県庁舎の改修事業の在り方 ◆広島市東部地区連続立体交差事業 ◆県営水道事業の民営化の4項目を質問。

次に2、防災・減災対策に取り組む県の責務についてとして

◆防災・減災対策に資する社会資本整備 ◆地域の建設業者の適正な確保の2項目を質問。さらには3、地域力強化につなげる今後の政策課題として、特に

◆二次保健医療圏の医療体制の充実 ◆定住促進に繋がる空き家対策等を代表質問の場で質問しました。

※GL育成校と県庁舎改修事業については中面に特集しています。

6項目の反対討論を

代表質問に続き、裁決の際に、執行部の6つの提案に対して反対意見を述べました。

1、県職員の給与引き上げと管理職手当の引き上げについては、成果主義という目的が公平性を欠くことから反対。2、広島がん高精度放射線治療センターの補正予算には、極めて甘い経営計画により生じた赤字を一般財源で補てんすることには反対。3、東部連続立体交差事業は、地元合意が得られておらず反対。4、グローバルリーダー

育成校の設置設計予算は、学校の規模や設置場所等が全て確定していないのに最大規模で予算案が組まれ、審議の手続を無視しているとして反対。5、県庁舎の耐震改修工事設計予算は、前述と同様に要求額に根拠がない上、莫大な費用を当面の耐震改修に充てるが、周辺地域も含めた都市機能強化策がみえないとして反対。6、水道事業の事業運営権を民間企業に売却する制度案は、水の安定供給は公共が確保すべきライフラインの中で最も重要なものであり、しっかりと行政のコントロールが必要なことから反対しました。



城戸会長を囲み、左から宮本・砂原・井原・佐藤の各県議

広志会議員紹介

- 会長 城戸常太 [呉市] 農林水産委員会委員
地方創生・行財政対策特別委員会委員
- 砂原克規 [広島市西区] 総務委員会委員
少子化・人材育成対策特別委員会委員
- 宮本新八 [山県郡] 建設委員会委員
安心な環境づくり対策特別委員会委員長
- 井原修 [東広島市] 文教委員会副委員長
広域・国際観光振興対策特別委員会委員
- 佐藤一直 [広島市中区] 生活福祉保健委員会委員
地域魅力創造対策特別委員会委員
予算特別委員会副委員長